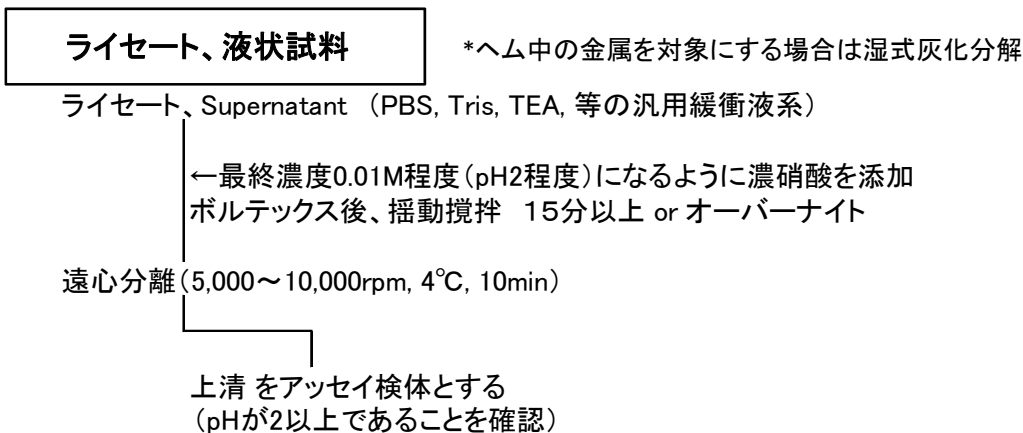
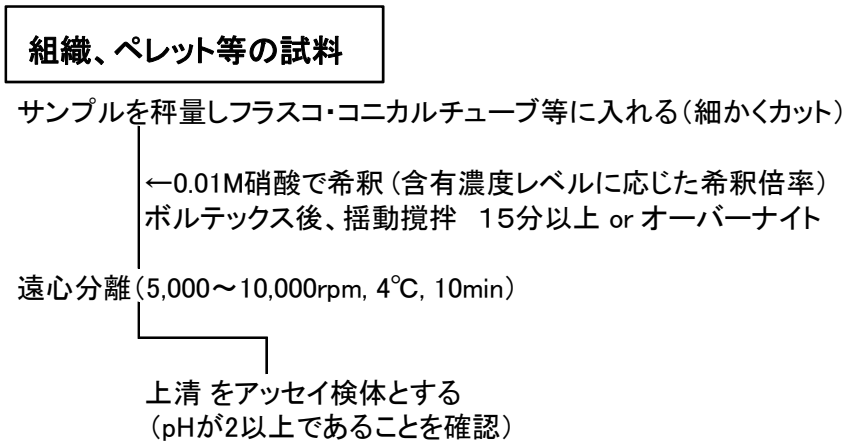


1. 酸抽出法

- 無機イオン、タンパク解離型金属等の遊離可能な金属量を定量する場合
- 迅速定量に定量する場合、半定量する場合
- スクリーニング試験等



2. 血清・血漿試料

EDTA採血管以外のチューブで採血し、そのままアッセイしてください。(溶血注意)

※メタロアッセイリチウムTDM測定LSはEDTA採血管の利用が可能です。

ただし、ヘパリンリチウム採血管は正の誤差を受けますので使用しないでください。

【アッセイ時の留意点】

- アッセイ検体は酸濃度が0.01M以下(pH=2)の試料とする
- アッセイキットは必ず常温にしてから使用
- アッセイ時、プレートミキサーでは攪拌不十分、ピペティングで丁寧に混合。泡がでたときはプレートミキサーで除去
- 測定値の読み取りは、反応時間を統一
- 測定波長はできるだけ最大吸収波長を使用
- 懸濁、着色しているアッセイ検体は、750nmでオートゼロ補正、あるいは試料ブランク法により正確さを付与
- アッセイ検体での濃度がキット測定範囲内であることを確認のうえ、範囲外の場合は希釈量を最適化させる。
- 濃度計算時に希釈倍率のかけ忘れに注意